

## 1 キョウニン

### 2 生薬の性状の項を次のように改める。

3 生薬の性状 本品は扁圧した左右やや不均等な卵形を呈し、長  
4 さ1.1～1.8 cm、幅0.8～1.3 cm、厚さ0.4～0.7 cmである。  
5 一端は鋭くとがり、他の一端は丸みを帯びてここに合点があ  
6 る。種皮は褐色で、外面にはすれて落ちやすい石細胞となっ  
7 た表皮細胞があり、粉をふいたようである。また、合点から  
8 出た多数の維管束が、途中で分かれて種皮全体に走り、その  
9 部分はややくぼんで縦じわとなっている。温水に入れて軟化  
10 するとき、種皮及び白色半透明の薄い内胚乳は子葉からたや  
11 すく剥がれ、子葉は白色である。

12 本品はほとんどにおいがなく、味は苦く、油様である。

13 種皮を剥離し、表皮の表面を鏡検(5.01)するとき、表皮  
14 細胞が変形した石細胞は丸みを帯びた多角形～楕円形、まれ  
15 に帽子形を呈し、径30～90 μmで、細胞壁の厚さは均一で  
16 ある。表皮下に径10～30 μmのシュウ酸カルシウムの集晶  
17 をまれに認める。中央部横切片を鏡検(5.01)するとき、石  
18 細胞は方形から鈍三角形で、細胞壁の厚さは均一であるか又  
19 は外側が厚い。中央平坦部の内胚乳の細胞層数は、通例、1  
20 である。子葉の柔組織中にアリューロン粒及び径10 μm未満  
21 のシュウ酸カルシウムの結晶を認める。

22